



地元の食材を使った料理を提供 「農家レストランばあちゃんち」オープン



▲鶴喰の食材を楽しむ家族

3月23日、24日、農事組合法人鶴喰の花村がさかもと温泉憩いの家で「農家レストランばあちゃんち」を期間限定で開きました。献立は盛りつけを工夫した地元料理で、コンニャク刺身、シイタケの二味揚げ、鶴喰のつペい汁など12品。当日は鶴喰のブランド米「鶴喰米」を購入した人が招待され、23日に12人、24日に25人が鶴喰で採れた食材を使用した料理を楽しみました。鶴喰米とのつぺい汁が気に入った本田公紀さん（鏡町）は「素材の味を楽しむことができました」と話しました。

八代の魅力を発信 香港のブロガーが八代をPR



▲畳作りを体験中

3月21日から24日までの4日間、香港の人気ブロガー15人が本市を訪れ、八代をPRしました。これは海外で影響力のある人に情報を発信してもらうことで海外からの観光客の誘致につなげることを目的としています。5人は3泊4日の日程でくまナンステーションや日奈久温泉街、妙見宮などを観光し、その様子をブログやSNSに投稿しました。畳を製作した鄧佩琪さんは「イグサのアイスや麵は全然想像がつかなかったけど、食べてみたらとてもおいしかった。ぜひ香港に持って帰りたい」と笑顔で話しました。

交流人口の拡大に期待 地域医療機能推進機構と協定を締結



▲左から山本部長、島田病院長、小野副知事

地域医療機能推進機構（JCHO）が、九州地区事務所を北九州市から本市へ移転することに伴い、3月20日に県庁で小野泰輔副知事立ち会いのもとJCHO熊本総合病院と本市が協定を締結しました。今回の事務所移転に伴い、職員13人が本市へ移住することに加え、管轄する14病院の職員研修や採用試験などにより、年間1500人以上の関係者が訪問、宿泊することとなります。調印式でJCHO熊本総合病院の島田信也病院長は「今後も八代の地域活性化に協力していきたい」と意気込みました。

坂本、東陽、泉の四季折々を表現 四季写真のコンテスト表彰式



▲グランプリを受賞した日當さん

3月15日、ふれあいセンターいずみで第13回八代市坂本・東陽・泉町観光と四季写真コンテスト表彰式が行われました。これは坂本町、東陽町、泉町の四季を通じた風景、伝統行事などの同地域の観光全般を表現した写真が対象のフォトコンテストです。応募総数119点の中からグランプリを受賞したのは日當國親さん（古閑中町）の「新緑の誘いを受けて」。審査員からは「にぎやかな様子が伝わってきます」と評価されました。日當さんは「グランプリはなかなか取れるものではないのでうれしいです」と話しました。

買い物弱者を支援 JAやつしろ移動店舗車お披露目式



▲「みどりのシンフォニーGO」(左)

4月2日から営業を開始する移動店舗車「みどりのシンフォニーGO」のお披露目式が3月14日にJAやつしろ本所で行われました。JAやつしろが運行するこの移動店舗車は金融サービスが提供できるほか、販売スペースで日用品の販売もあり、店舗に足を運ぶことが難しい人への支援を行います。大規模災害が発生した際には、被災地にも車両を派遣し、被災者の支援活動にもあたります。今後は、月曜日から金曜日までの午前10時頃から午後2時30分頃まで山間地域や沿岸地域を運行します。

みんなで赤ちゃんを応援 第8回全国赤ちゃんハイハイ大会



▲さまざまな表情を見せる赤ちゃん

3月10日、イオン八代店で第8回全国赤ちゃんハイハイ大会online the 畳（TATAMI）が開催され、1歳未満で歩行前の赤ちゃん約120人が参加しました。5人1組の赤ちゃんが、八代産の畳2枚先のゴールを目指してハイハイをはじめると、保護者は赤ちゃんのお気に入りの玩具やおやつなどで誘導し、やる気を引き出していました。コース上では、畳で気持ちよさそうに寝そべる赤ちゃん、ゴールへと一直線に進む赤ちゃんなどさまざまな表情が見られました。会場は温かな空気に包まれました。

釈迦の誕生祝う 釈迦院花まつり



▲釈迦の像に甘茶をかける参拝客

釈迦の誕生を祝う花まつりが4月8日、泉町柿迫にある釈迦院で行われました。釈迦院は西の高野山と呼ばれる1200年以上の歴史がある天台宗の寺院です。参拝者は境内に設けられた花御堂にある釈迦の像に甘茶をかけ、一年の無病息災を祈りました。ほかにも法要や甘茶の振る舞い、餅投げなども行われ、県内外から訪れた多くの人でにぎわいました。釈迦院花まつり体験ツアーに参加した宮田一美さん（熊本市）は「初めて訪れたが、釈迦院の歴史も知ることができてよかった」と話しました。

66年間、地域の人に愛されて 八代市立病院閉院式



▲66年間ありがとうございました

3月29日、八代市立病院の閉院式が同病院で行われ、職員や地域住民約50人が参加しました。同病院は3月31日をもって閉院し、4月1日からJCHO熊本総合病院附属クリニックとして現地で診療を開始。今後、病床機能はJCHO熊本総合病院と八代北部地域医療センターへ移転されます。式で中村博生市長が「長年にわたって幅広い地域医療を献身的に行っていただき、ありがとうございました」と感謝を述べると、森崎哲朗院長は「長い間お世話になりました」と同病院と職員にお別れの言葉を贈りました。

河川の維持管理の充実を図る 河川協力団体指定証の授与式



▲村上理事長（左）と安原所長（右）

3月26日、国土交通省九州地方整備局八代河川国道事務所が河川協力団体指定証の授与式が行われ、球磨川アドベンチャーズやつしろが指定されました。河川協力団体制度は、河川の管理につながる活動を自発的に行っている民間団体などを支援するもので、同団体は球磨川に触れ合い、親しみながら遊ぶ活動が評価されました。八代河川国道事務所の安原達所長が指定証を手渡すと、村上光三理事長は「今後はより一歩踏み込んだ活動を行っていききたい」と抱負を述べました。

日奈久にバイオマス発電所が新設 日奈久バイオマスと立地協定締結



▲左から岩原代表取締役社長と田中副市長

3月19日、日奈久バイオマスの岩原正樹代表取締役社長が市役所鏡支所を訪れ、本市とバイオマス発電所の新設に伴う立地協定を締結しました。今回新設するバイオマス発電所は、発電によって発生した熱を利用し、木質チップの乾燥施設、台湾の果物である釈迦頭の栽培、食品加工施設なども展開される計画です。調印式で田中浩二副市長が「可能な限り支援していききたい」と話すと、同社の岩原社長は「事業の展開とともに、地域の活性化に積極的に取り組んでいきたい」と抱負を述べました。

懐かしさや温かさを伝えたい 東町川原町地区のサイン披露



▲東町川原地区の住民の皆さんと熊本高等専門学校の生徒ら

東町川原地区に地区内の暮らしを伝えるための案内板や解説板が設置され、そのお披露目が3月19日に行われました。この案内板を作ったのは熊本高等専門学校八代キャンパスの生徒6人です。今回のお披露目で制作、設置をした税所航平さん、岩谷祐伸さん、福田倉士さんは「この地域の良さをアピールできたらと思って制作しました」と想いを語ると、地元住民の岩本昭吉さんは「設置してもらえてうれしい。看板はずっと残るものなので大事にしていきたい」と話しました。

元気よく渡りました 新設の信号機点灯・渡り初め



▲安全に渡りました（古閑中町）

3月18日、古城町と古閑中町に新設された信号機の点灯と渡り初めが行われ、古城町は麦島幼稚園の園児3人、古閑中町はわかみや保育園の園児23人が参加しました。八代警察署交通第一課の水下睦文課長が「車が停止したのを確認した後に渡ってください」とあいさつすると、子どもたちは車に気をつけながら横断歩道を渡りました。友達と元気に横断歩道を渡ったわかみや保育園の駒走妃鞠さん（6歳）は「右を見て、左を見て、もう一度右を見て安全に渡ることができました」とうれしそうに話しました。